

第3回「関西観光・文化振興計画」検討委員会議事要旨

1 日時 令和6年12月9日（月）10時00分から12時00分

2 会場 関西広域連合本部大会議室

3 出席者 藤野委員（座長）、橋爪委員（副座長）、大浦委員（web参加）、
岡部委員（web参加）、川森委員（web参加）、木ノ下委員（web参加）、
坂上委員、東井委員（web参加）、横井委員（web参加）

4 主な意見

○本文について ⇒：事務局回答

【全体の構成】

- ・広域連合と府県市の役割分担や推進体制を分かりやすく記載すべき。
- ・計画の進捗状況をチェックできる仕組みも必要。
- ・各戦略の実施がKPI達成に貢献することを明示する必要がある。
⇒進捗状況の確認は外部から見えるような工夫をしていきたい。

【万博関連】

- ・万博レガシーの活用など、ポスト万博について計画期間中に追記できるように。
- ・IRについても記載があった方が良い。
- ・万博で得たノウハウやデータを、万博後に地域の観光・文化にどう活かし、何を実現するのかを明確に。
⇒IRについての記述は今後の進捗状況や上位計画である広域計画の対応も確認しながら検討していきたい。

【その他】

- ・チケット販売のスマート化などデジタル対応に関する記述もあった方が良い。
- ・MICEについて、各所にできている都市型アリーナの活用と共に記述が必要ではないか。
⇒MICE誘致は各構成府県市が主体的に取り組んでおり、関西広域連合としては開催都市と連携して施設から周遊される方への情報提供についての記載等を検討したい。
- ・分散周遊を推進するためには着地型観光の推進が必要。DMOの機能強化を盛り込めないか。
⇒着地型観光は、各地域で取り組んでいるところではあるが、関西広域連合としては、好事例の共有や地域をつなぐ取組等を入れていけるか検討したい。
- ・周遊観光は団体客がバスで巡るイメージ。関西観光本部のグランドデザインでは広域観光と表現している。
⇒広域観光と広域周遊観光の使い分けについては、最終案に向けて調整していきたい。
- ・「国際観光」にはアウトバウンドが含まれているので文言の整理が必要。

- ・「マナー違反」というと批判的な印象が強い。例えば「文化や習慣の違いに起因する『行動』による～」にするなど、柔らかい言葉に修正を。
- ・明確に「マナー違反」と言われる言動は、外国人に限らず確かにある。マナー違反とそうでないものを分けて記述の方が良い。
⇒マナー違反については、文章表現の工夫を検討する。
- ・一般的でない言葉について、注釈が必要。
- ・アートフェアのみではなく芸術祭という言葉を入れた方がわかりやすい。
- ・「KANSAI 感祭」の目的と達成目標や何をするのかを付記した方がよい。
⇒一般的でない文言等について注釈等を追記する。

○キャッチフレーズについて

- ・クリエイティブ（産業）がこの計画の新しい要素なので、それを踏まえたものに。
- ・「創造の関西」をベースとして考えていく方向で。

○目標値について

- ・文化と観光の相乗効果を計る指標、この計画でしか計れないものが必要。
- ・2029年までに1泊増、消費額25%アップなどシンプルにイメージしやすい表現が良い。
- ・旅行消費額はツアー料金など関西以外（東京の旅行会社等）にお金が落ちている部分もあるので注意が必要。
- ・関西でこれから大事なものは地方部への宿泊。関西全部で1泊増やすなら地方部を分けて書く必要はない。
- ・経産省のクリエイティブ（コンテンツ）産業の指標等も参考になる。

※最終案に向けてキャッチフレーズ、目標値含め修正等は座長、副座長に一任で調整。